

コーポレート・ガバナンス

○ マネジメント体制

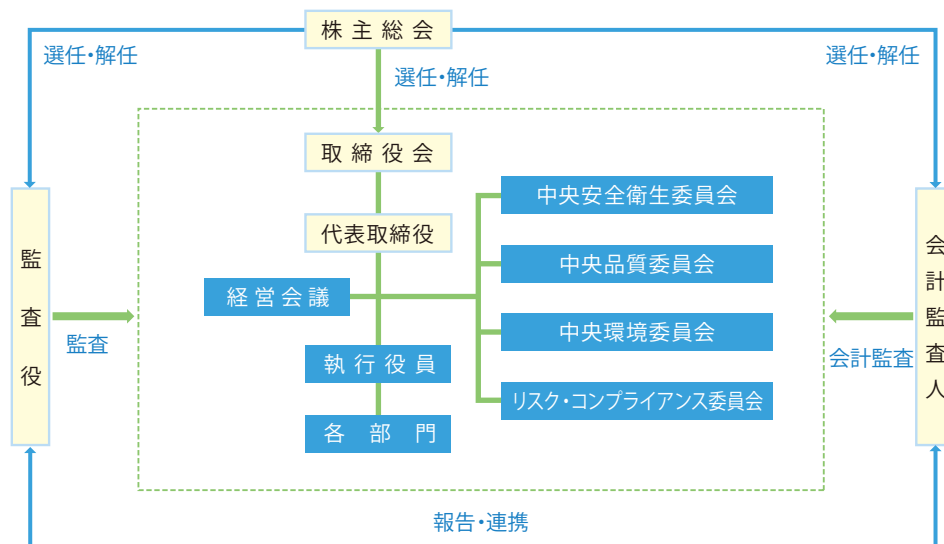
東罐興業の取締役会は5名の取締役で構成されています。取締役の経営責任を明確にし、経営環境の変化に対応できるよう経営体制を機動的に構築するため、取締役の任期は1年としています。また東罐興業は監査役制度を採用し、監査役3名による取締役の職務遂行および当社の経営状況の監視を実施しています。

○ 経営会議

経営の意思決定・監督機能と業務執行機能を明確にすることを目的として、執行役員制度を導入しています。また、当社および当社グループ会社の経営方針、および経営戦略に係る重要事項について、企業戦略の意思決定をより迅速に行うため、社内取締役、監査役および各本部長などによって構成する経営会議を設置しています。

○ コーポレート・ガバナンスの実施状況

2016年度の取締役会は12回開催し、法令で定められた事項や経営に関する重要事項を審議・決定するとともに、業務執行状況を監督しました。また、経営会議を毎月2回開催しました。その他リスク・コンプライアンス委員会をはじめとする各委員会を開催し、コーポレート・ガバナンスの健全な運営に努めました。



○ CSR経営の推進

東罐興業グループが考えるCSRは、経営理念の一つである「包装容器事業をコアとし常に社会のニーズと自然環境に調和した製品とシステムを創造し生活文化の向上に貢献します」を実現することです。我々を取り巻く幅広いステークホルダーからの期待に応え、信頼を得るよう努めてまいります。

東罐興業グループCSR基本方針

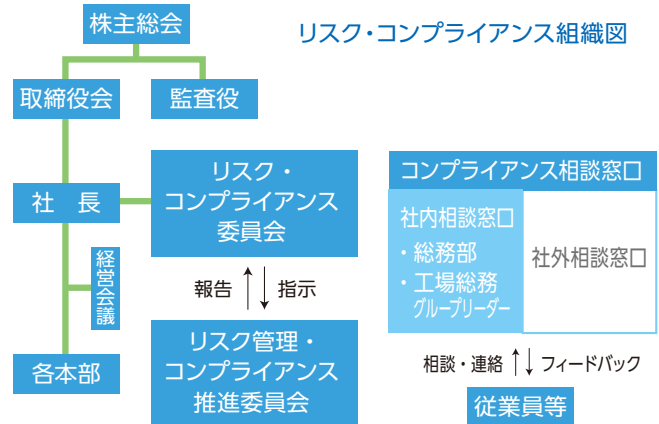
全てのステークホルダー	全ての人の基本的人権と多様性を尊重し、誠実に対話し、行動します
お客様	お客様の信頼に応える安全・安心な製品・システム・サービスを提供します
お取引先	常に高い倫理観を持って公平・公正・透明な事業活動を行います
株主	企業価値の向上に努め、情報の適正な管理と開示を行います
従業員	安全かつ衛生的で元気あふれる職場をつくります
地域社会	地域社会との共生を目指して、地域での交流を大切にします
地球環境	地球環境の保全と質的改善に積極的に取り組みます

リスク・コンプライアンス活動

東罐興業は2006年に、それまで個々で活動していたリスク管理委員会とコンプライアンス推進委員会を統合し、リスク管理とコンプライアンス推進を統括する組織としてリスク・コンプライアンス委員会を設置して以来、「企業行動規準」の制定をはじめとした活動に取り組んでまいりました。

○ リスク・コンプライアンス推進組織

東罐興業は社長を委員長とし、各本部の本部長を中心とした委員からなるリスク・コンプライアンス委員会を設け、社内にコンプライアンス精神の浸透と定着を図るとともに、東洋製罐グループ各社と連携を取りながら東罐興業グループ全体のコンプライアンス体制の構築に取り組んでいます。また、下部組織としてリスク管理・コンプライアンス推進委員会を設置し、実務的な活動を行っています。



○ 2016年度取り組み

2016年度は「リスク・コンプライアンスをより身近に -ひとりひとりが常に意識して!-」を活動テーマとし、特にリスク管理に関する活動として「リスク活動に関する情報共有・情報発信の充実」に、コンプライアンス推進活動として「社内・社外相談窓口の周知・徹底」、「従業員向けコンプライアンス教育の強化」、「海外グループ会社向け企業行動規準の作成」に取り組みました。

○ コンプライアンス推進月間

東罐興業を含めた東洋製罐グループでは毎年10月を「コンプライアンス推進月間」と定めています。2016年度は「人権と個性の尊重」、「情報の適正な管理と開示」をグループ共通テーマに掲げ、さまざまな活動に取り組みました。

○ 社外相談窓口

東洋製罐グループでは、従業員などからのコンプライアンス違反行為に関する通報や相談に応じるグループ会社共通の窓口として、社外に「企業倫理ホットライン」および「セクハラ・人間関係ホットライン」を設置しています。この社外相談窓口を周知するため、PRポスターを作成し、グループ各社の事業所内に掲示しています。



○ リスク管理

東罐興業の業務執行にかかわるリスクとして、以下の項目を重要なリスクと認識し、リスク毎に担当部署を定め、規則・ガイドラインを策定するとともに、組織横断的なリスク管理体制を構築しています。

「コンプライアンス」「製造・品質」「環境」「財務・会計」「情報セキュリティ」「自然災害・事故」「カントリー」「事業・経営」

○ 対象リスクへの対応事例

自然災害・事故リスク「安否確認システムの導入」

災害が発生した時に従業員の安否を把握することや、風水害による人的・物的被害の状況を把握することは大変重要であると考え、2013年度から東罐興業グループ全体で安否確認システムを導入しました。安否確認や被害状況などの情報収集に利用し、指示・連絡に役立てます。

社会とのかかわり

東罐興業グループでは地域社会との共生と相互理解を目指し、地域交流活動を行っています。

○ 地域清掃活動

各工場周辺や近隣の公園などの定期的な清掃活動を実施しています。



NTP(株) 福岡工場
工場近隣地域の水路清掃



東罐興産(株)いわき工場
工場周辺清掃



東罐高山(株)
工場周辺道路の落ち葉清掃

○ 紙コップリサイクルに向けた活動

サッカースタジアムや野球場では、グラウンドへの投げ込み防止や衛生性、利便性から紙コップが使用されています。東罐興業では、使用済み紙コップを分別回収し、リサイクルへの提案を行っています。また、リサイクル実施のために、紙コップだけを分別回収できる紙コップ回収カートの提案もしています。

紙コップ回収カートの特徴は「紙コップ状態が管理しやすく、簡単に使用済み紙コップを取り出せる」、「逆さまに紙コップを収納することで残液が残らない」等です。

その他にも2016年8月には「原宿表参道元氣祭 スーパーよさこい2016」の給水所でご使用いただいた紙コップの回収作業をサポートし、リサイクル活動に繋がりました。



原宿表参道元氣祭 スーパーよさこい2016 給水所



○ 水野政雄先生作品

水野政雄先生は郡上八幡在住の造形作家で、絵画や切り絵、紙人形、彫刻などの領域にも広げられて活動をされています。その中で工作材料として紙コップや紙皿を利用した作品も制作されており、2010年以降は毎年その年の干支の作品を当社にも寄贈していただいております。それら作品を、7月～8月の期間限定で本社で展示させていただきました。

○ 品川エコフェスティバル

品川エコフェスティバルは、地域の団体などが環境活動をアピールし、環境問題を通して世代間の交流の輪を広げる目的で毎年5月に開催されています。2016年は、東洋製罐グループホールディングス、東洋製罐、東洋ガラスと合同で出展し、間伐材紙コップや紙皿を使った工作を紹介しました。



○ コップでサイエンス

東京大学のサイエンスコミュニケーションサークル「CAST」と東罐興業とのコラボ企画として連載していました「コップでサイエンス」。当社製品の紙コップなどを使ってできる科学実験をご紹介します。

この度、その中で特に人気のあった実験21点をまとめ冊子にし、身近なものを利用して科学を楽しんでいただくきっかけになればと、各イベントや出前授業などで配布しています。



安心して働ける職場づくり

経営理念に、「従業員の個性と多様性を生かし変革と創造に積極果敢に挑戦する自由で生き生きした企業風土を作ります」とあるように、様々な人材が能力を発揮し、成長できる職場環境づくりに取り組んでいます。また、ワークライフバランスを重視した人事制度を導入し、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいます。

○ 定年後の再雇用

定年退職を迎えた従業員が希望した場合、原則として再雇用を行っています。長年にわたる経験やスキルを活かすことができるように、さまざまな働き方が可能となる制度を導入しています。

○ キャリア採用・外国人採用

事業の拡大や海外を含む新たな事業展開に対応するため、キャリア採用や外国人採用を積極的に行っています。新たな人材が加わることで、今までにない発想や価値観が共有され、個人の成長につながることを期待して、採用を拡充していきます。

○ 障害者雇用

障害を持つ方がより働きやすいように、各事業所で作業内容、勤務時間や勤務体系を工夫しています。

○ 教育研修制度

新入社員から役職者まで、各階層で期待される果たすべき役割を意識し、必要とされる能力を発揮するための階層別研修を行っています。その他、自己啓発として通信教育制度等があります。

○ 公的資格取得支援制度

業務上で必要とされる能力・知識の向上をサポートするため、指定する公的資格の受験料を会社が負担、また、資格・免許を取得した者に対して奨励金を支給しています。

○ 育児・介護支援制度

長期休暇として育児休暇や介護休暇、短期休暇として子の看護休暇や短期介護休暇、支援措置として短時間勤務や時差出勤などの育児・介護支援制度があります。

2017年1月からは介護休暇の期間が伸長され、対象家族1人につき、通算365日まで3回を上限に分割取得できるようになりました。また、子の看護休暇、短期介護休暇が半日単位で取得できるようになり、利用しやすい制度となりました。



安心して働ける職場には、従業員全員の安全への配慮が不可欠です。東罐興業では安全衛生管理について組織的に取り組んでいます。

○ 中央安全衛生委員会

東罐興業は社長を委員長とし、各本部の本部長を中心とした委員からなる中央安全衛生委員会を設置しています。2016年度は「危険回避の考働を身に付けてリスクに対処、災害根絶!～よくみて確認 危険予知、「設備」に「作業」に「からだ」にも～」を活動方針として、様々な活動に取り組みました。

○ 安全衛生活動について

全事業所において、安全スローガン・ポスター等のコンクール、安全週間等の行事、小集団活動、危険予知訓練、研修や教育などを行い、従業員の安全意識の向上に取り組んでいます。

衛生活動では照度・騒音・有機溶剤濃度などの職場環境測定による環境維持向上と、保護具の着用推進を行い、安全で健康的な職場環境づくりに努めました。

また各事業所では防災訓練の実施、AEDの設置とAEDを使用した救命講習など定期的に行い、緊急時の安全についての知識向上に努めています。



小牧工場 AED講習会

○ 健康推進

全従業員に対し、年1回の健康診断、生活習慣病予防検診を行っています。各事業所には健康支援室を設け、従業員の身体的、精神的な健康を支えています。また、外部から保健師を招き、測定器を使った体チェックや健康講和を実施するなど、健康促進についての取組みを積極的に行っています。



静岡工場 健康講話後の体チェック

品質保証

東罐興業は経営理念に示す通り「品質を全てに優先させて包装容器のプロとして専門技術を磨きお客様の良きパートナーとして信頼され感謝される企業づくりを目指します」を基軸として、お客さまや社会のニーズに応え、開発・調達・生産・販売・物流の全てのプロセスにおいて、時代に合った品質の確保・向上に取り組んでいます。

○ 品質保証活動

東罐興業は社長を委員長とし、各本部長を中心とした委員からなる中央品質委員会を設置し、品質保証ならびに品質活動・教育などを包括した活動を行い、各工場の品質レベルの向上に取り組んでいます。

『Challenge G21』に於ける、品質のありたい姿：“顧客満足度の向上を得られる品質を提供し続ける事のできる企業”を目指し、第二次中期経営計画の2016～2018年度は、“顧客満足度を常に獲得出来る、強固な品質体制を構築”としており、そのスタートとなる2016年度は“品質保証体制構築の元年”として、

1. 流出防止：不良を出さない / 漏らさない …… 人と検査機による管理の強化
2. 再発防止：過去の問題を再発させない / 風化させない …… 巡視と水平展開
3. 標準化：誰にもわかる / 必要な人が誰でも見られる …… 標準類の見直しと共有化
4. 人材育成：個人のスキルUp / 組織力の向上 …… 基礎教育と論理的思考

の4本柱を軸に、お客様の要望を、より細心に、より迅速に、より共有化し、お客様目線での活動を進めています。

各工場では既にISO9001、FSSC22000の統合運用を進めています。更に業務との一体化と、有効性の向上を目的に、本社、開発部門を含めた全社活動に向け準備をスタートしました。



“食”に関する問題は、私たちの生活で最も身近な問題の一つです。

包装容器に関しても、食品の一部として考えられるようになってきました。当社もフードチェーンの一員として、お客様と共に食の安全・安心への取り組みが必要と考えており、異物混入防止や食品防御など食品安全マネジメントシステムを活用したレベル向上に取り組んでいます。

容器の軽量化、リサイクル材・間伐材の使用など、環境対応の容器推進と平行し、それらの容器の機能・安全性への品質確保と維持管理を進めています。

『あたり前に 協働品質』をスローガンに、“顧客満足度の向上を得られる品質を提供し続ける事のできる企業”に向けて活動しています。